

令和元年度 鈴鹿高専

青峰寮広報誌 青峰

目 次

寮監勤務（副校長）	2
青峰寮の歩み（寮務主事）	3
我が寮生活を振り返って（教務主事）	5
新寮務主事補挨拶（白木原主事補）	7
着任のご挨拶（桑野講師）	8
寮長挨拶	9



5年生 A寮で記念撮影

寮 監 勤 務

副校長 末次 正寛

私が赴任した当時(大昔)の話です。初めての寮監宿直勤務が近づいてきたので心配になり、先輩の先生に「何をしたらいいんですか？」と聞きました。当時は、今のような新任教官への親切なガイダンスはなかったように思います。先輩の先生は、「整列させて点呼、巡回、監視、あ、それから、時々脱走するのがいますので注意してください。」とおっしゃいました。それを聞いて、私の頭には“高倉健”や“網走番外地”の文字がよぎり、ますます心配になったことを思い出します。もちろん私が想像していたようなことはなかったのですが、今に比べると、さすがに古めかしい居室でした。真ん中の廊下を挟んで、左右に寝室(というより雑魚寝用の畳部屋)と勉強室(机が人数分置いてあるだけ)があるのですが、4人用のこのユニットがただ並んでいるだけなので、言うならば「階ごとの大部屋」みたいなものでした。現在はクーラー付個室ベースの構造へ改修され、快適な生活空間となっています。が、昔は昔で“快適”だったのではないのでしょうか。ただ、当時はクーラーなどというものは付いていませんでしたので、夏の“脱走者”の行先は、プールだった、という噂も聞いたことがあります。

携帯電話が世の中になかった時代は、外線電話の取次ぎが週番の大事な役目の一つでしたから、週番は週番室にずっと籠っていました。週番室は寮監室の隣にありますので、寮監の先生が寮

内の見回りに部屋を出るとすぐわかります。この情報を、放送用マイクの頭を“コン、コン”と叩いていち早く寮内へ知らせていた曲者もいたようです。

風呂は、今も昔も共同浴場です。新任当時は寮監室の小さい風呂より大きな風呂へ入ろうと思い、よく学生用の共同浴場へお邪魔しました。底のタイルが剥がれていたのか、湯船に浸かっていると足の裏が痛かった覚えがあります。しばらくして、教官がお邪魔するのは学生からしてみれば迷惑であることが薄々わかってきたので、遠慮するようになりました。

このように、今と昔では大きく変わっているようですが、共同生活の場という意味では全く変わっていません。大部屋の昔に比べて個室ベースの現在では、以前にも増してお互いの気遣いが必要になってくるように思います。一見、逆なような気もしますが、お互いの顔を見る時間が少なくなればなるほど、そうなのではないでしょうか。



青峰寮の歩み

寮務主事 林 浩士

高等専門学校は、日本独自の教育システムとして昭和37年(1962年)に創設された。その50余年にわたる教育の特徴の一つとして、多くの高専が比較的大きな規模の学寮を設置し、5年一貫教育の一部を担う「教育寮」として運営してきた点があげられる。鈴鹿高専青峰寮は、昭和42年度(1967年度)から1・2年生全員が学寮生活をおくるいわゆる「全寮制」をとった。「全人教育」のスローガンのもと、平成になるまで、全寮制特別授業として1・2年生全員が隔日で朝の武道(柔道または剣道)を行い、心身を鍛錬していた。

平成元年度の電子情報工学科新設に伴う学生数の増加により、平成3年度には過去最多の577名の寮生が生活する寮となったが、寮生数の増加に伴い、既存の施設では寮生の快適な学習・生活に支障をきたす面が多くなり、平成5年に青峰寮A(現高学年男子寮)を新築、翌平成6年に第4青峰寮(現低学年男子寮)と寮管理棟および浴室棟を大規模改修、平成8年に第1青峰寮(現女子寮)を改修した。当時、居室は学年をまたいだ複数人部屋を基本としていたが、学生のニーズに対応する形で新築の青峰寮Aは全室個室とし、第1青峰寮、第4青峰寮でも上級生には居室を個室として使用させた。

その後、プライバシーを重視する生活感覚の変化や施設の改修などにより、30年におよぶ全寮制を廃止し、平成9年(1997年)4月より希望者のみが寮

生活を送る「任意寮制」に移行した。さまざまな生活環境で育ってきた多様な学生を受け入れることを考慮すれば、全寮制廃止はいたしかたのない選択だったと言える。とはいえ、現在もなお330名の学生が学寮生活をおくっており、令和元年オープンカレッジでの学寮案内には中学生およびその保護者を合わせて約300名の参加があることは、県立高校等との比較の中で、学寮が鈴鹿高専の大きな特徴であり続けていること裏付けている。

本校では昭和61年度(1986年度)から毎年数名の留学生を受け入れている。当初はマレーシア・インドネシアからの留学生が主であったが、その後ケニア、中国、韓国、ベトナム、モンゴルなど国籍の幅が広がり、現在はタイからの受け入れも検討している。留学生も日本人学生と同じ学寮規則で生活しているが、生活習慣や宗教の違いから、第2青峰寮(男子)と第1青峰寮(女子)には留学生のための設備を整え、シャワー室や補食室を整備してきた。ただ、専用設備を充実させるにつれ、寮内での生活空間は日本人学生と区別される傾向にあるため、留学生と接することで身につくことが期待される国際感覚の醸成は今ひとつといった現状にある。今後さらに増える可能性がある留学生といかに関わり、グローバルな感覚を磨ける空間を創出できるかが、学寮としての課題となりそうである。

学寮は学生が日常生活をおくる場所である。刺激を受ける場所であると同時に、ホッとする時間も確保できなければならない。時間と空間の「共有(シェア)」をしながら他者と関わる力を高めると同時に、プラ

イベント空間で自分自身と向き合うこともできるべきだ。古来の日本家屋は障子や襖で仕切られていたことを思えば、日本人のプライバシーの捉え方自体が西洋文化とは異なるものであったことは言うまでもない。近年グローバル化が進む社会において、高専卒業生に期待される「国際感覚」「チームワーク力」の養成を、学校活動以外の部分でも支援できる学寮のあり方を検討していきたい。



我が寮生活を振り返って

教務主事 下古谷 博司

私が中学校を卒業したのは今から40年ほど前である。中学校卒業後は高専に進学したため、16才から寮生活を送ることとなった。その当時のことを思い出し、幾つか書かせて頂く。

私が高専に進学が決まった当時は、入学までの2ヶ月間は高専に合格した嬉しさ・喜びも多々あったが、それよりも16才で寮生活に入ることが不安であり憂鬱な気分であったことを覚えている。私が進学した当時の寮は4棟であったと思うが新入生が入る寮は4人部屋でかなり古い建屋であった。部屋には木製のベッドと机(上部には本棚が作り付けられていた)が用意されており、ベッドの上には荷物を入れる大きな戸袋(戸棚)が用意されていた。寮生活は朝の点呼から始まり夜の就寝まで規則正しい日課で運営されており、概ね本校の日課と同じであったと記憶している。当時も本校と同じように2時間の自習時間(20時から22時までだったと思う)が設けられており、寮生活を始めた当初はこの自習時間が面倒であったが新鮮なものに感じていた。というのは、小・中学生の頃は自宅で勉強をほとんどしたことがなかったため、寮生活における自習時間がすごく新鮮に感じた。ただ、それまで自習をほとんどしていなかったためか、今思い起こせばこの時に自学自習の習慣が身についたのではないかと思う。週末を除き平日はほぼ毎日自習していたため、学校の授業で不便を感じることはなかった。一方、



淡路島へのツーリング・キャンプ

週末はというと、ほぼ毎週自宅(要する時間は本校から名古屋に行く程度)に帰省していた。1分でも早く帰るために、土曜日の12時半に寮門近くにタクシーを予約していた(当時は、土曜日に半日授業が実施されていた)。帰宅後は1年生の時は原付バイクで、2年生になってからは125ccのバイクでライダーがよく行く場所へツーリングしたことを覚えている。高専生の頃は、長期休みを含めほとんどの休日をバイクとともに過ごしたと記憶している。

さて、寮での食事はというと、朝はパン食、昼と夕はごはん食だったと思う。ただ、当時のごはんは、電子ジャーに入っておらず、直径1mくらいの木製のおひつに入っていた。今では遅くに寮食堂に行っても温かいごはんが頂けるが、当時は遅くなるとごはんが冷めていたため美味しく頂くことができなかったことを記憶している。また、昼食後等には、寮食の職員の方が使用済みのおひつを洗い食堂の前の池の近くに天日干し乾かしていたためか夕食の時にはごはんの中に……が入っていたこともあった。今では考えられないことである。また、お茶は今では自動給茶機を使うのが当たり前

だが、当時はお茶の入ったやかんが提供場所に幾つか用意されており、それをテーブルまでもってきて使っていた。そのため、最後の方は空の状態のやかんがテーブルのあちこちに置かれていたことを記憶している。

ところで、私が進学した高専は、交通の不便なところ？にあるため、寮に入らなければ学生生活は送れないと言っても過言ではない。寮に残れなくなると必然的に下宿生活となる。そうなれば経済的にも負担が大きくなり、生活のリズムも崩れてしまうことになる。そのため、卒業まで寮に残ってられるかで生活習慣が大きく変わることになってしまう。1, 2年生は全寮制であったため、全員寮生活をおくることができたが、3年生以上は定員の関係から寮生活を続けたければ、品行方正でかつ指導寮生(本校の指導班長や寮役員)を担当しないと寮には残れない状況であった。そのため、3年生からは指導寮生を志願し5年生まで全うすることで卒業までの5年間を寮で生活することができた。今では高学年の学生には1人部屋が与えられるが、当時は3人ないし4人部屋であった。しかし、指導寮生を担当することで2人部屋が与えられた。このことも指導寮生を志願した理由の一つであった。今考えると当時の学生としては快適な寮生活が送れたのではないかと思う。ただ、指導寮生は点呼をとったあとすぐに寮監の先生に報告にいかねばならなかった。当時の寮監室(寮監教員は毎日1名であった)は学生寮とは別棟にあり、雨の日や冬の寒い日などは大変だったことを覚えている。当然、指導寮生は下級生の支援(生活面でも勉強面でも)も行わなければならない責任重大な役目であった。ただ、指導寮生を3年間続けたことで責任感やメ

リハリをつけた行動など、日常生活に大切なことを自然と身につけることができ、今思い起こすと、16才から親元を離れ高専で過ごした5年間の寮生活(集団生活)は、学生としても人としても大きく成長する一助となったと考えている。本校の寮生諸君にも「だらだらした」寮生活をおくるのではなく、「メリハリをつけた」寮生活をおくって欲しいと思う。

ここからは、おまけです。高専卒業後は、大学の3年次に編入した。大学編入後も2年間は寮生活をおくったが、大学の寮は高専とは異なり自由寮であった。そのため、規則等にはほとんど縛られることはなかった。しかし、高専の5年間で経験した寮生活は大学の寮生活でも生かされ、規則的な日課や自学自習といった面では苦勞することはなかった。大学院(修士課程)へ進学した後は、寮に残ることができず(最大で2年間という期限が設けられていた)初めて下宿生活を体験することとなったが、それまでの寮生活のおかげで特に苦勞することはなかった。修士課程では、ほどほどの研究(速硬性高分子の開発とそのFRPへの応用)と勉強に励み、私生活でもボーリングにビリヤード、ツーリングにドライブと多くの社会勉強をさせて頂いた。博士課程に進学後はそれまでの生活とは一変し、研究漬け(DNA制御酵素に関する研究)の毎日となった。博士課程の3年間はお盆とお正月に1週間程度休みがあっただけで、普段は、8時半から23時ないし24時まで研究一筋の学校生活をおくっていた。

新寮務主事補挨拶

機械工学科 白木原 香織

こんにちは。ガイダンス等で主事補メンバーが変わったな。とは思っていたかもしれませんが、4月から寮務主事補になった機械工学科・白木原です。実は2012年度に寮務主事補になったのですが、一年でお役御免となって他の主事補を経由して再チャレンジとなりました。

前回はすでに7年前の出来事で、専攻科生さえ本校に入学していない時のことなので、そこから寮運営も随分変化しています。当時の入寮のしおりを読み返すと、高学年への夕点呼の実施、開寮・閉寮時でさえも寮地区への自家用車の乗り入れは認められず、校内駐車場から荷物を運ぶようにとの注意書きや、8時50分から14時35分の閉寮（玄関施錠）など多くのルールの中で生活していました。今では当たり前になっているネットワーク(Wi-Fi)環境はもちろんなく、携帯電話を所持している割合も低かった分、学生同士のコミュニケーションが活発に行われていた気がします。

主に女子寮を担当することになりましたが、皆さんも知っているように機械工学科はほぼ男子学生です。高専内でも、女子学生と接する機会というのは数が少ないので、所属学科の先生の方が話しかけやすいかもしれませんが、寮生活で気になることがあれば気軽に相談してください。上級生の指導の下で秩序があり、寮内が清潔に保たれて、集団生活の窮屈さもあるものの、

快適な寮生活を送れているのでは？というのが今の寮の印象です。

寮長さん、副寮長さんが中心となった「寮生会」は、学生自身が寮生活を考え、運営をしていこうという趣旨で成り立っています。“寮生による自主自律”という言葉をよく聞くとと思いますが、自律＝自由ではないことは分かりますよね。学生運営が増えるということは、学生さんの自己責任部分が増すということで、教員が「学生さんを信用して任せる」ことなので、期待を裏切らないでください。

皆さんのより良い寮生活のお手伝いをできればと思っています。気付かないことも沢山あると思うので、不便なこと、困っていることがあったら、教えてください。これから、よろしくお願いします。



着任のご挨拶

.....

教養教育科 桑野 一成

本年度から教養教育科(数学教室)の講師として着任いたしました桑野一成と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。出身は新潟県で、2012年に新潟大学大学院自然科学研究科で博士(理学)の学位を取得しました。その後、2年間新潟大学で研究員を務め、2014年からは、神奈川大学工学部情報システム創成学科に助教として着任し、5年間教鞭をとりました。そこでは主にプログラミングやデータ解析を教えておりましたので、出身学科は数学科ですが、教えるのは情報系の科目の方が慣れています。

さて、鈴鹿高専に着任して半年以上が過ぎました。その間に何度か寮監をさせていただきましたが、毎回感心させられるのが、学生の皆さんによってきちんと寮内が統制されていることです。一人ひとりが規律を守る意識を持っており、指導寮生がしっかりとまとめてくれているからでしょう。これは素晴らしいことです。点呼に遅れたり、いなかったりする学生はほとんどおらず、23時の消灯以降に巡回しても、騒いでいる学生もいません。私の高校時代と比較すると、寮生の皆さんは本当にしっかりしています。私も高校時代は寮生だったのですが、鈴鹿高専の寮とは違い、学校指定の民間のアパートに入っていました。部屋は一人部屋で、キッチンとユニットバスがあり、点呼もありませんでした。寮監という制度もなく、度々抜き打ちの部屋チェックがありましたが、基本

的に寮内には生徒しかおらず、ほとんど一人暮らしに近い状態でした。こう聞くと、寮生の皆さんは自由があつて羨ましいと思うかもしれません。しかし、「自由」は人を墮落させてしまうこともあります。私がまさにそうで、寮に入ってから全く勉強しなくなってしまいました。おかげで、何とか3年生まで進級できましたが、受験勉強ではかなり苦労しました。勉強しなかったために知識が身につけていなかったことよりも、「勉強する習慣がなくなっていた」ことに苦労させられました。いざ勉強しようと思っても全く集中できず、時間だけが無駄に過ぎてしまうのです。ですから、皆さんが寮生活で感じる「不自由さ」は、実は皆さんを守ってくれているのだと思います。だからといって、規則は何でも受け入れましょうなどと言うつもりはありません。世の中は目まぐるしく変化しており、人々の考え方も変わってきています。そうした中で、廃止したほうが良い規則もあれば、追加したほうが良い規則もあるでしょう。

寮は「皆さんが」生活する場です。一人ひとりが当事者意識を持って、より良い寮生活を送れるように積極的に考え、行動に移してください。我々教員も可能な限りサポートしますので、充実した寮生活が送れるように一緒に頑張りましょう。

寮長あいさつ

青峰寮総長あいさつ

青峰寮総長 笹川雄飛

私は城山中学校という滋賀県の中学校出身なので鈴鹿高専へ入学してから寮生活をしています。入学前は家族から「絶対ホームシックになる」と言われ続けられましたが、実際には寮生活の方が楽しく、閉寮してしまう長期休暇しか家に帰りませんでした。なので、逆に寂しくなった親がテスト期間に学校まで来るという出来事がありました(笑)。長期休暇にしか帰らないほど楽しい寮生活をしているわけですが、その例をいくつか挙げていきます。

・不定期開催する料理大会

友達と一緒にそれぞれ料理をして自分の作った料理を食べてもらうというものです。料理の腕の見せ所なのでみんな頑張ります。

・冬と言えば鍋

寮生は少しでも節約するので友達と割り勘で野菜を買い鍋を作ります。これが結構美味しいんです。

・休日の筋トレ

休日の体育館が空いているときに友達と一緒に筋トレをしに行きます。筋トレ器具が体育館の2階にあるのでそこで筋肉を追い込みます。

これはあくまで私の場合ですが寮生活ではこのような事もできるので、人生で1回は寮生になることをお勧めします。



学園祭で女装パフォーマンスした笹川君

1寮寮長あいさつ

1寮寮長 三田有紗

はじめまして。1寮の寮長をさせていただいている者です。山と写真が大好きです。中学3年生までを長野で過ごしたため、山はとても身近な存在です。

私が鈴鹿高専に入学した時、寮事務に寮務係の上野さんという方がいました。上野さんはよく長野の山に登られる方で、それがきっかけでよくお話をしました。今は高専の仕事は辞められてしまいましたが、学校に来たときはいつも声をかけていただきます。今年の高専祭でお会いした時には涸沢カールの紅葉の写真をいただきました。とても綺麗な写真なので、今も寮の机に飾っています。

おそらく今の寮生で知っているのは私だけかと思いますが、実は、上野さんがとった写真のアルバムが2階の補食室にあります。1寮寮生の皆さん、将来1寮に入る皆さん、ぜひ開いてみてください。日本中の絶景が補食室で見られます！

上野さんから、空いているページに写真を足していいよ。と言っていたので、鈴鹿高専を卒業するまでに素敵な写真をたくさん撮ります！読んでいただきありがとうございました。

4寮寮長あいさつ

4寮寮長 成田耀

おはようございます、こんにちは、こんばんは4寮寮長の成田耀です。

4寮には1年生から3年生までの学生で基本生活していて寮の役員である4年生が少数入る形になっています。なので僕は4年生です。



成田君のジャンプサーブ

4年間寮に住んでみて非常に居心地の良さを感じています。

理由はいくつか挙げられて、まず通学時間がないので自由な時間と睡眠時間の確保ができるということです。人間の三大欲求である睡眠時間を確保できるということが僕はとても大きいところだと思っています。これにより部活動と勉強の両立がしやすい環境といえるでしょう。次にいろいろな学科の学生と交流でき友達の幅が広がるということもです。これが醍醐味といってもいいでしょう。実際寮生で他学科との関係があつて助かったというときがいくつもあります。さらに共同生活なので限りなく家族に近い位置に友達がいるので、生涯の友達にもなりますし逆に友達の嫌なところも見えてきます。

これは寮生じゃないとできない経験だと思っていて近くにすぎると嫌なところはたくさんみえてきますがそれを受け入れて友達のいい所を受け入れるか気の合わない友達で終わるかなどの経験を僕はして人生の財産だと思っています

まだまだいい所悪い所ありますが全部言っていると日が暮れます。

皆さんに寮生活を勧めます。今回はこのへんで おおきに